

ある席で「回る」という語が出てきました。回るとは、「回転すること」という説明がありました。そんな時、ふと愚かな疑問が湧いてきました。回るとは、どっちに回るのかということでした。時計の針は右回り、リレー競争は左回りという現実があります。

愚かな疑問は、不問のまま時を過ごしました。そんな時、「大漢和辞典」という都留文科大学の元学長諸橋徹次先生の労作がありました。それによると、「回」の中に「(かこい)」を作って、外は大□とし、内は小□とし、皆回転の形です。そして天体は外にあって左旋し、日月五星は内にあって右旋するのが是です。」という解説がありました。

漢字ができた頃は、左回りが普通で、象形の古文も左回り形になっていました。わたしは嬉しくなりました。

辞書によれば「知る」ということは、「自分のものにする事だ」とありますが、欲求が充足されたという満足感が、私を幸せにしてくれました。同じような繰り返しですが、辞書を集めたり、辞書を読むという習性を与えてくれました。

生涯学習の意義として、「人間は外界(日常生活・職業生活・余暇生活の各面)との対応の中で、主体的に学習することによって、自己を形成していくものである。」と説明されていますが、私は、自分なりに、人間は生命を何と取り替えていくか、ということに帰着すると考えています。

会議で議論しているときでも、生命を会議という仕事と取り替えていると考える訳です。取り替える仕事は、無数にあつて、無意識的な眠りという生理的な仕事もあつたり、意識的に物を作ったりする仕事もある訳です。生活の面で拘束された仕事が多い訳ですが、旅行とか観賞という形はないが、心に残る仕事とか、陶芸や絵画、書道などのように形に残る仕事もあります。今やっていることが、自分の生命と取り替えている仕事だという認識に立つと、「心は広く豊かになっていく。」と私は思っています。

生涯学習通信 生涯学習推進会議調査・啓発部会



のびのび いきいき 生涯学習



《わたしの生涯学習》

夕方になつぷり与えた水で、のびのびと葉を広げた岩松葉を眺めながら体操し、数百本の岩松葉に水をやる。これが長年続けてきた一日の始まりです。

退職してから今日まで、悠々自適の生活ですが、人から「趣味は」と聞かれると、若い頃から土を盛り上げ石を組み合わせ花を咲かせ、岩松葉の増殖などをしていたので、「趣味は園芸かな」と答えます。

そのほかに近くの山へ登ったり、遠くは西沢渓谷、東沢渓谷、瑞牆山、金峰山、北岳などに登山し自然と一体になれた思いに満足感を覚えることができました。

特別な行動は別として普段の生活の中で生涯お付き合いのできるものを何にしたらと考え思い巡らしていましたが、悩むより実行と板を四角に切り端を丸くして花瓶敷のようなものを作り、それが出発となりました。鋸を使ってもキイキイ鳴って動かなくなる、そんな不器用な私でも何とか作りました。道具といえば、子どもが中学の技術・家庭科で購入した工作用具でした。

今では木材の温もり、木目の美しさ、特に樺の美しさに魅せられて作品は樺を主な材料にしています。不器用を思い知らされても何とか出来るのは電動工具を使っているからです。糸鋸盤、ボール盤、トリマーと取付ビット、これらを使って溝掘り、切り抜き、そして組み合わせ、ヤスリでゴシゴシ。

作品は飾り棚や床の間に置くものを目標に、主として花台を作ります。天板の大きさ、足の形、高さ、飾りのデザイン、型紙作り、材料の調達、そして工作、磨き上げ、あの手この手と工夫をこらし、一カ月、二カ月かけて作ります。

完成した花台を床の間に置いて全体のバランス、透かし彫り、木目、深い色艶、木肌の触感を楽しんでいます。

数年前から、作品を十一月三日の都留市文化祭趣味の会に出展させていただいています。会の皆さんを始め多くの方々から励ましの言葉をいただきました。この言葉を糧として、ゆっくりですが一磨き一研ぎ、続けて頑張っていくつもりです。